

要 望 書

北海道運輸局長 岩崎三日子 様

私達は、「ふるさと銀河線代替交通確保協議会」において承継会社による鉄道運行を検討していただけるよう心からお願い申し上げます。

バス転換では「利用者が減り、便数が減り、赤字が増える」悪循環を生むだけです。

ふるさと銀河線（以下、「銀河線」）は北海道ちほく高原鉄道株式会社が「廃止届け」を出したために、バスへの転換が進められようとしています。しかし、バスに転換しても赤字が解消することはなく、むしろ時間の不正確さや長時間の乗車、冬場の待合所の寒さや運行障害によって、「利用客が減り、赤字が増え、便数が減り、また利用者が減る」という悪循環を生むだけです。

バス転換では過疎化が進み、やがては陸の孤島になる町も。

バス転換による不便さの結果、銀河線沿線にある高校には学生が集まらず、やがては廃校になります。沿線外の高校へ通うことも難しくなります。病院通いのお年寄りが冬場にバスを待つことは出来ません。結局、便利な沿線外の町に人々は転出し、沿線の町々の過疎化は一挙に進み、バスも走らない陸の孤島になる町も出てきます。

ふるさと銀河線を第二の貴志川線にしてください。

承継会社の誘致を検討してください。

南海電鉄貴志川線（和歌山県）は「廃止届」後の「代替交通確保協議会」において岡山電気軌道株式会社を承継会社とすることで、存続することができました。岡山電気軌道株式会社は、銀河線についても「条件を整えば承継可能」といっています。貴局が主催する「代替交通確保協議会」において、岡山電気軌道株式会社が承継可能とする条件について真摯に御検討いただけるよう心よりお願い申し上げます。

沿線住民の熱意と責任を示します。

岡山電気軌道株式会社が銀河線を承継する条件に、「沿線住民の熱意と責任を示す」ことがあります。私たちはそうした熱意と責任を示すために、岡山電気軌道株式会社が立上げる新会社に資本参加する「株式購入運動」を推進します。

官から民へ、マイレール意識で黒字転換をめざします。

私達は、沿線住民の多くが新会社の株主になることで、今までの第三セクターでは持ち得なかったマイレール意識を持ち、黒字転換に向け様々な行動を行います。世界自然遺産知床を有する道東の地の利を最大限に生かし、地元観光業者、農業関係者、産業関係者と連携し新しい鉄道経営を創造します。

沿線自治体の説得に全力を注ぎます。

新会社に長期に安定して銀河線を運行していただくためには沿線自治体の協力が絶対に不可欠です。沿線自治体は銀河線を知床＝道東観光にしっかりと位置付け、更に物流、物販を結びつけることで黒字転換がありうることも理解しているはず。私達は沿線自治体に対し、新会社と協力し応分の負担を負うことのメリットを全力で説得してまいります。

私達は以上の決意を表明し、貴局主催の「ふるさと銀河線代替交通確保協議会」において岡山電気軌道株式会社を承継会社として誘致することを真摯に検討されるよう重ねてお願い申し上げます。

氏 名	住 所